



# コロナ禍「自然減」加速

## 道内人口動態

# 外国人は入国緩和で増

今年1月1日時点の住民基本台帳に基づく総務省の人口動態調査で、道内の日本人は恵庭市、空知管内南幌町を除く177市町村で前年より減少した。新型コロナウイルス禍で出生数が減り、死亡が出生を上回る「自然減」が加速したことも要因とみられる。対策の緩和で人の移動が活発化し、外国人の転入超過は8千人台半ばに上った。日本人の流出を補い、18年ぶりに全道で「社会増」となった。



人口減少数の多い道内10市	日本人の減少数	外国人を含む総人口の減少数	日本人人口(総人口)	前年比減少率
函館市	▲4022人	▲3675人	24万3千人(24万4千人)	▲1.48%
旭川市	▲3878人	▲3774人	32万3千人(32万4千人)	▲1.15%
札幌市	▲3458人	▲1156人	194万4千人(196万人)	▲0.06%
釧路市	▲2722人	▲2627人	16万人(16万人)	▲1.61%
小樽市	▲2007人	▲1878人	10万8千人(10万9千人)	▲1.70%
蘭越市	▲1759人	▲1734人	7万8千人(7万8千人)	▲2.17%
小室町	▲1415人	▲1229人	16万7千人(16万8千人)	▲0.72%
苫小牧市	▲1411人	▲1359人	7万6千人(7万7千人)	▲1.74%
岩見沢市	▲1398人	▲1290人	11万2千人(11万3千人)	▲1.13%
北見市	▲1129人	▲1033人	16万3千人(16万4千人)	▲0.63%

外国人の増加が多い道内市町村	増加数	増加率
札幌市	2302人	17.24%
倶知安市	985人	144.85%
函館市	347人	34.56%
川町	221人	74.66%
東川町	209人	74.64%
二子町	186人	22.33%
占冠村	172人	115.44%
小樽市	129人	21.29%
内子町	129人	34.04%
狩野村	128人	25.70%
石井町	122人	41.08%

道内主要10市の日本人人口は軒並み減った。自然減が大きく、札幌市の昨年1年間の自然減は1万2242人と、前年比24%増。同市の21年の合計特殊出生率は1・08と全国平均の1・30を大きく下回り、札幌市立大の丸山洋平准教授(地域人口学)は「コロナ禍の中で進んだ出生率の低迷が数値に表れ始めた」とみる。自然減は旭川市が3455人で前年比16%増、函館市は3231人で同11%増だった。

コロナ禍で抑えられていた道外への転出も活発化。全道から人を集める一方で首都圏などへの流出元となってきた札幌市は、日本人の社会増加数が8784人と、前年より803人減った。道内35市のうち20市で社会増が鈍るか社会減が加わった。

速した。拠点都市が域外への流出をせき止める「ダム機能」が低下している。日本人住民の増加率が全国の町村で最高だった南幌町は、町内に家を建てた子育て世代への助成が奏功し、札幌などから移住が増えた。同町まちづくり課は「札幌の地価上昇や札幌に近い立地の良さが後押しした」と話す。同じく札幌のベッドタウン恵庭市も日本人人口が増加した。

外国人を含む動きはより活発だ。日本人と外国人の合計で人口増加数、増加率がそれぞれ全国町村トップとなった後志管内倶知安町、上川管内占冠村はともにリゾート地。コロナ対策の入国規制が緩和され外国人従業員が戻った影響が大きい。同管内比布町では外国人住民が家族を呼び寄せるなどした結果、外国人人口が前年の3人から17人となり、外国人の社会増加率が全国町村で1位となった。

2023年7月26日(水) 朝刊 全道版 3ページ (記事は再編集しています)

① 日本人の人口増減について述べている文章で誤っているものを1つ選びなさい。

- ア. 人口減少はコロナ禍の中で進んだ出生率の低迷が影響している。
- イ. 拠点都市が域外への流出をせき止める「ダム機能」が低下していることが人口減少に影響している。
- ウ. 札幌市の地価上昇や札幌に近い立地を生かして、札幌のベッドタウンの恵庭の人口は上昇している。
- エ. 函館市と札幌市を比べると、日本人の前年度人口減少人数は、函館市のほうが多い。

② 倶知安町と占冠村の外国人の人口が増加している理由を「リゾート地」という言葉を使って簡単に説明しなさい。